

二〇一八年の冬、むすび座団員とスタッフ、
鹿児島県子ども劇場の若者たちは韓国にいた。
そこで見たもの、出会ったことが
人形劇「トッケビ」を生み出した。

姿かたちを観る人にゆだねる『人形劇の新境地』

トッケビ

鬼ヶ島と呼ばれた島

脚 本 西上 寛樹 (ナリオ工房天邪鬼)
演 出 大野 正雄
美術 小辻 賢典
人形デザイン 岡田健太郎
音 楽 上村 竜平
企 画 人形劇団むすび座
鹿児島県子ども劇場協議会



絵：照喜名隆介

昔々のことだから、あったかなかったかわからないが
なかったこともあったことに聞いてくれば
昔々、「この島」にはトッケビが住んでいた。
トッケビは姿の見えない、島に吹く風のような存在だ。
おばあさんも島民たちも、トッケビと一緒に穏やかな
島の生活を送っていた。
だがある時、海の向こうから桃の旗印を掲げた
かの有名なこ一行がこの島めがけてやって来た。
その者達は、この島を「鬼ヶ島」と呼んだ…。
鬼のいない鬼ヶ島で繰り広げられるもう一つの
桃太郎伝説。はじまりははじまり。

